



2025 明治安田 J3 リーグ 第 38 節
11/29 (土) 15:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest
FC 大阪

順位表 11/25現在 基本 37試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	栃木 C	74p	+27	64	37	A●	HO
2	八戸	71p	+23	45	22	H●	A●
3	FC大阪	68p	+21	52	31	A△	
4	宮崎	67p	+17	60	43	H●	A●
5	鹿児島	66p	+27	67	40	A●	H●
6	金沢	56p	+6	49	43	H●	A●
7	北九州	56p	+6	45	39	HO	AO
8	奈良	56p	+5	49	44	A△	H△
9	栃木 SC	55p	+2	38	36	H●	AO
10	福島	53p	-8	58	66	A●	H●
11	相模原	50p	-7	38	45	H△	AO
12	鳥取	48p	-6	42	48	A●	H●
13	岐阜	47p	-7	50	57	---	---
14	群馬	43p	-4	55	59	A△	HO
15	松本	40p	-10	39	49	H△	A●
16	琉球	39p	-16	40	56	A●	HO
17	高知	38p	-19	40	59	H△	AO
18	讃岐	35p	-17	40	57	HO	A△
19	長野	35p	-24	29	53	AO	HO
20	沼津	28p	-16	40	56	HO	AO

1年間のご愛読
ありがとうございました。

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
＜定休日：日曜・祝日＞
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★

アミカ

ドミ

イン



JR
岐阜駅

通算対戦成績	全 5 試合 (J3:5試合) 岐阜1勝 / FC大阪1勝 / 3分け Jリーグ岐阜ホーム戦：1勝0分1敗		
直近の対戦結果	2025/02/16 J3 - 1 節 @花園 FC大阪 1-1 岐阜 得点者：佐々木快		
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/11/23 J3 - 37節@いちご 宮崎 2-1 岐阜	2025/11/24 J3 - 37節@花園 FC大阪 1-0 高知
		2025/11/15 J3 - 36節@長良川 岐阜 2-0 栃木 C	2025/11/16 J3 - 36節@長野 U 松本 1-1 FC大阪
		2025/11/09 J3 - 35節@長良川 岐阜 2-4 鳥取	2025/11/10 J3 - 35節@たけびし FC大阪 3-0 長野

●長丁場だった全 38 試合の J 3 リーグ 2025 シーズンも、ついに残り 1 試合。11/15 (土) 第 36 節・ホーム栃木 C 戦は、首位チーム相手に岐阜が攻勢を掛け、前半 23 分に #29 川本梨誉のワンタッチゴールで先制。その後は栃木 C の猛攻に遭うが、粘り強く守り、逆に後半 23 分にカウンターで OG を奪う。その後もゴールを防ぎ切り、岐阜が 2 - 0 で勝利した。続く 11/23 (日) 第 37 節・アウェイ宮崎戦では、前半早々に J 3 得点ランク 1 位の #11 橋本啓吾に先制点を決められる。宮崎の鋭い出足に苦しむ岐阜だったが、前半 43 分に #55 外山凌のヘッドで同点に。しかし、後半も宮崎の勢いに押され、後半 16 分には #11 橋本が 2 点目。その後はスコアは動かず、岐阜が 1 - 2 で敗れた。

この 2 試合の結果、岐阜の順位は 13 位と変わらなかったが、14 位・群馬との勝点差が 4 なので、最終順位 13 位以上は確定した。そして、11 位・相模原との勝点差が 3 と、まだ上位を目指せる状況だ。残念ながらプレーオフ圏に届くことはないが、最後まで、ひとつでも多くの勝利を、勝点を、ゴールを積み重ねることが、プロスポーツである J リーグの全チームに求められているはずだ。そして、今節は今季の最終節、しかもホーム最終戦だ。チーム、フロントそしてサポーター、この長良川に集う誰もが、F C 岐阜の勝利で今シーズンを締めくりたいと、強く願っているはずだ。

さて、今季最後の対戦相手は、F C 大阪だ。J 参入 2 季目の昨季は 6 位に躍進したが、プレーオフ 1 回戦で敗退。J 参入 3 季目の今季は、大嶽直人監督 2 季目体制でさらなる上位進出を目指して、リーグ前半戦を首位で折り返す。しかし、7 月に入って勝点を伸ばせずに失速し、8/31 (日) には大嶽監督は双方合意で契約解除、後任に (2008 年に岐阜で現役引退した) 数田光教ヘッドコーチが就任。直近 5 試合の成績は 3 勝 1 分 1 敗・6 得点 2 失点で、現在の順位は 3 位。既にプレーオフ圏内は確定しているが、わずかに 2 位 (= J 2 自動昇格) の可能性 (八戸が負けて F C 大阪が勝ち、得失点差でも上回る) も残しているため、最後まで全力で得点を奪って勝利するべく、攻撃を仕掛けてくるだろう。逆に、その攻撃から上手くボールを奪えれば、岐阜の得点チャンスが生まれるはずだ。

F C 大阪との通算対戦成績は、岐阜の 1 勝 3 分 1 敗・4 得点 3 失点。昨季のホーム戦・11/2 (土) 第 35 節は、大雨の中での一戦。前半はピッチ状況も悪く、お互いに決定機が生まれなかったが、後半に雨が小降りになると、両チームにチャンスが生まれるようになる。その中で #19 松本歩夢と #6 北龍磨のゴールが決まり、2 - 0 で勝利。前回対戦となる 2/16 (日) アウェイでの開幕戦では、人数を掛けて寄せる F C 大阪の攻撃で、前半に岐阜の守備陣が混戦でクリアしきれず、その隙を突かれて失点。後半は岐阜がボールを保持するもゴールに結びつかず、A T の土壇場に #28 箱崎達也の F K から #11 佐々木快のバックヘッドでようやく追いついて 1 - 1 の引き分け。今日の試合で勝利して、通算対戦成績では勝ち越したい。

現在の J 3 では、F C 大阪は比較的ボール保持には拘らず、カウンターとセットプレーによる攻撃を特徴としており、また失点が 2 番目に少ない (1 番は八戸) チームだ。そのゴールを守る守護神は、大卒 2 年目で今季フル出場を果たしている GK #1 山本透衣。そして、昨季まで岐阜に在籍 (2023 ~ 2024 年) していた #3 川上竜也、FP では唯一の全試合 & 最長時間出場で、CB として堅守を支えている。この牙城を崩すため、岐阜の攻撃陣の奮起に期待したい。また、F C 大阪には岐阜に在籍 (2018 年) した #33 禹相皓がいる一方で、岐阜にも #28 箱崎達也や #19 松本歩夢など、大阪 (関西) 出身の選手が多い。地元の J クラブを相手にする、岐阜の選手たちの活躍にも注目だ。

長かったはずの 2025 シーズンも、残すところ 1 試合。このチームで戦うことができる、その最後の 90 分間。ひたむきに走り続け、一戦必勝で貪欲に戦う選手たちの勇姿を目に焼き付けながら、僕ら F C 岐阜サポーターも、最後まで彼らの背中をしっかりと後押ししよう。そして、数ヶ月後には、また新しいシーズンがやってくる。チームを去る選手と来る選手で入れ替わり、また新たなチームが始動することになる。しかも、今度は特別リーグだ。この後は不確定要素が多いシーズンオフに入ることになるが、まずはこの試合を、しっかりと勝って笑って終わろう。そして来季も再び、僕らのホームスタジアム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場に集い、僕らのクラブ・F C 岐阜を支え続けよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第 36 節】岐阜 2-0 栃木 C

●まずは目の前で昇格を決められるということを阻止できて本当に良かった。

シティのピーター・ウタカ、バスケス・バイロン、田中パウロ淳一の前線 3 枚は脅威だった。積極的に攻撃を仕掛け、隙あらばシュートを放ってくる。枠内にシュートを打たれることもしばしば。茂木秀の再三のファインセーブに救われる。しかも岐阜はこの日先発に起用された山田直輝が、前半 10 分過ぎに負傷交代を余儀なくされるアクシデント、厳しい状況に立たされる。

が、しかし先制したのは岐阜。右サイドから荒木大吾がカットインしてからのシュート、シティ DF に弾かれるもののこぼれ球を泉澤仁が拾い外側にいた西谷亮へ。西谷から中へ入れたボールを山田に代わって投入された川本梨誉がワンタッチでコースを変えてゴールに流し込んだ。

後半もシティの攻勢は続く。ヒヤリとする場面も多く、我慢の展開が続く中での岐阜に待望の追加点。左サイド泉澤から折り返されたボールが、シティ DF 小西慶太郎のミスを誘発しオウンゴールとなってシティゴールへと吸い込まれていった。これで更にシティはギアを上げてくると思われたが、しばらくするとバスケス、パウロ、岡庭裕貴の 3 人をベンチに下げてしまった。

後から分かったことだが、バスケス、パウロの 2 人はイエローカードの累積が 3 枚溜まっていて、この試合でカードを貰うことを避けたリスクマネジメントであったかと考えられる。これで両サイドの推進力がなくなったので、岐阜はずいぶん対応しやすくなったのではないだろうか。

それでも AT、ウタカのスルーパスに反応した都倉賢のシュートは危なかった。

そのまま 2-0 でタイムアップ。クリーンシート勝ちは望外の喜び。選手・ベンチ・スタッフが一体になっての勝利。残り 2 試合、最後まで岐阜らしいサッカーを見せてほしいものである。

試合後、シティサポーターが FC 岐阜コールでエールを送ってくれた。本当に感謝。この日の秋の空のように清々しい気分になったなあ。(岐阜の誇り)

●前節のホーム鳥取戦で、4 失点した岐阜の守備陣。今節の相手は首位・栃木 C、てっきり僕は選手の入替えをしてくると思ってたのに、前節と同じ布陣で正直驚いた。だけど、蓋を開けてみると中身はきっちり修正されていたし、今まで課題だった試合の入りも集中できていた。試合前から『この試合に勝って“3 季連続での昇格を決める栃木シティ”の姿』を撮ろうと、普段いない各種マスコミの皆さんが集まった長良川。『J 2 昇格は固いかもしれないけど、俺たちのホームではやらせないよ！』という思いは僕たち以上に、選手たちが強く心に刻んでいた。前半 12 分でのキャプテン #15 山田直輝の負傷交替は予想外だったけれど、あの悔し涙は、そうした強い決意の裏返しに見えたし、その涙で選手たちは一層奮起したように思う。そして緊急交代で投入された #29 川本梨誉がしっかりと結果を残す。前半 23 分、#8 荒木大吾が中央に切り込んでシュート、その弾かれたボールを #16 西谷亮が左サイドで受けてゴール前に送ると、#29 川本がニアに入り込んでワンタッチで先制点！そして、先制点の直後に #97 福田晃斗が狙い澄ましてシュートを撃ち、2 点目……と思ったら、相手 GK の好セーブに阻まれてしまう。すると、ここから栃木 C の反攻が。#77 田中パウロ淳一のクロスを #90 ピーター・ウタカがフリーでヘッド！これは GK #1 茂木秀がビッグセーブで弾いて難を逃れたけれど、さすが首位・栃木 C。ちょっとでも隙をつくるとやられる、ヒリヒリした展開に。それにしても #90 ウタカって 41 歳だよな？ウチの若い CB と競っても負けないって、J 3 規格外のフィジカルですか（苦笑）。何とか無失点で前半を終了するも、後半も開始直後から栃木 C が攻勢に出る。その度に、DF 陣が身体を張り、#1 モ

ギシューがビッグセーブでゴールを割らせない。かなり我慢する時間が続いた後半 23 分、ボールを奪った #28 箱崎達也が前に運び、フリーの #39 泉澤仁へ。これを絶妙のクロスで折り返すと、防ごうと足を伸ばした相手 CB のオウンゴールで追加点！いやまあ、触らなければ逆サイドに走り込んだ #16 西谷がシュートする体勢だったから、その状況に持っていったウチの選手たちを褒めるべきで（笑）。この後、栃木 C は 3 枚替えて、なんと #77 パウロと #39 バスケス・バイロンを下げてしまう。これには正直驚いたけれど、後で聞いたら 2 人とも警告 3 枚、つまりこれ以上、この試合で無理させて警告を貰って、次の試合（栃木 C のホーム最終戦・長野戦）に出られないことを避けたようで。それでも #90 ウタカは出続けるし、交替で入ってきた #9 都倉賢の、まあ怖いこと（苦笑）。この後も、何度も肝を冷やして何度も天を仰ぎ、そして、ようやく迎えた後半 AT。スタジアム全体でアイダを響かせる中で試合終了の笛。ギリギリの線だったけれど、首位チームを撃破できる、現在のウチのチームの実力。こういった試合を、シーズン前半から見せてくれたらなあ……と、つい思ってしまう（苦笑）。まあそういう姿は来季（と言って良いのかしら？）の通常リーグに期待するとして、今季あと 2 試合、しっかりと勝利を積み重ねて欲しいものです。（ささたく）

●本紙・岐大通にはホーム長良川での最終戦号に「今季のベスト〇〇」という投稿企画がある。その中の「ベスト・ゲーム」がほぼ決まったのでは？というのが、この試合の感想。それまではアウェイ・相模原戦を最右翼に考えてたが、改めて振り返ってもこの試合に軍配が上がるような気がする。もちろん、次節の宮崎戦がこの試合を上回るコトを願ってはおりま

すともさ。期待してます！
内容としては手に汗握る展開。ただ、終始コチラに流れが向いてたよね。「お久しぶりです！」のオ・ウングル氏はもとより、前半のパウロのクロスからのウタカのドンピシャ・ヘッドとか、終了間際の都倉のシュートが枠外に飛んでったコトとか。申し訳ないけど、いわゆる『ノット・ヒズ・デー』ってヤツ。まあ、アレですよ。歓喜はホームで迎えた方がいいんじゃないかな？サッカーの神様もその辺は心得ておられたね。これも、ひとつの「アウェイの洗礼」ということで。いや、栃木シティが「勝てば自動昇格確定」だったのを知らなかった自分が言うセリフじゃないけれど、その場面を長良川で見せつけられなくてよかった、と心底から（苦笑）。アウェイで見せられたコトはあるけど、やっぱり、長良川で見せられるのは、ね。

でも、そういう流れを持ってきたのもスタジアムの、勝利を呼び込む雰囲気を作り上げたゴル裏を中心とした現地組のおかげだと思ってる。天気もよかったし、ビッグ・フラッグも殊更に映えたし。え？ビッグ・フラッグを掲出した時の戦績？いやいや、そんな昔のことは覚えちゃいないし、気にしてないから。

あとは直輝の状態だけが心配かな？あ、それとウィリー。もう一回、インジュにお尻ペンペンされときなさいね？なんなら、監督からゲンコツ……。いや、それはマズイか（笑）。（ぐん、）

●栃木シティは両ウィングのバスケス・バイロンと田中パウロ淳一にセンターのピーター・ウタカで圧を掛けるスタイルの 4-1-2-3 の攻撃的スタイル。ここで受け身になると圧を掛けられ続けて手一杯になるのだけど、岐阜はビルドアップで栃木シティの圧をかわせれば、両ウイングと両 SB の間のスペースを活かすことが出来る（ワンボランチなのだし）。なので、首位を相手に「やられっぱ」という感じはなく、昔むかしの戦場（いくさば）のように「やあやあ我こそは」と名乗り合ってから斬り合うような、清々しい戦いが繰り広げられた。先制点はやっぱりサイドから。ボールが右に張ったダイゴに出る→中に持ち込んでシュート→さらに左に持ち出してそこから中へ→リヨが合わせて流し込む。完璧なボールの動きではないか。

追加点も守備が薄くなってるサイドから、ジンがSBを抜き去って低いクロス→これが相手のオウンゴールを誘った。で、この試合の特筆ポイントは、この失点の後で栃木シティがバスケットとパウロ、そしてワンボラの岡庭を下げたことだ。最後の交代機会なので一気に替えるしかなかったのだろうけど、岐阜はこれでだいぶラクになった。いくら岐阜から見たら栃木シティの両ウイングと両SBの間がチャンスポイントだったとはいえ、岐阜の選手だって疲れている。そのまま両ウイングから圧を掛けられ続けた方がつらかったんじゃないかな。試合後に、バスケットとパウロは警告3枚持ちだったのでもこの試合で警告を受けるとホーム最終戦に出られないことの配慮だ……との解釈を読んだ。まあ、「次節で勝てばそれでいい」って判断だったのだろうけど、岐阜にとってはグッド・ラックでした。とはいえ、交代で入った都倉にも決定機をしっかり作られたんですけどね。恐かったぁ〜（苦笑）。まあとにかく首位相手のクリーンシートですよ。見せ場どころ。戦果しっかり。帰宅してから祝杯たっぷり。『最高の週末』って、こういうのを言うんだね。（吉田鑄造）

【第37節】宮崎2-1岐阜

●プレーオフ圏内は確定させたけれど、（プレーオフでの勝利条件が有利になるので）まだ上位を目指すために勝利を目指し、かつホーム最終戦を迎える宮崎と、そういったチームの目標が欠けている岐阜。残念ながら、その違いが明確に結果として現れてしまった試合だったと思う。もっとも岐阜の方は、来季に向けたテスト（？）をしたようで、それも結果に影響したとは思いますが……。慣れない布陣で動きの悪い岐阜に対して、これまで戦ってきた布陣で寄せる宮崎。少しでも戻りが遅いと抜けられる。そして前半早々、自陣PAでの混戦から、こぼれ球を#11 橋本啓吾に決められて失点。あの位置で待ってるのは、さすがはJ3得点ランク1位というか、2位（12点）の倍獲ってるのは、完全にストライカーとして覚醒してるよねえ……。なんで夏にJ2のクラブから引き抜かれなかったのかしら（苦笑）。前半33分には#28 箱崎達也の決定機を、宮崎GK #31 岡本享也の“恩返しセーブ”で阻止されてしまう。それでも前半43分には、右サイドに張ってた#8 荒木大吾からのクロスを、#55 外山凌がヘッドで逸らして同点にして、前半終了。しかし後半にギアを上げてきた宮崎に対して、後手に回る岐阜。後半16分に縦パスで抜け出されて、落とした所に走り込んだ#11 橋本にPA外でダイレクトに撃たれて突き放されてしまう。あの位置で撃てるのは、やはり自信があるからだとは思いますが、やっぱり岐阜の選手の戻りが遅いからで……。（溜息）。その後も、岐阜はボールを回すけれどパスをミスしたり戻してしまったりで、シュートには至れない。チームの悪い癖が出る中で、宮崎のカウンター攻撃に苦しめられる。GK #1 茂木秀のビッグセーブなどもあり、それ以上ゴールを決められることは無かったものの、決定機を作ることもできず、1-2で試合終了。岐阜の倍以上のシュート15本を撃たれて、岐阜がテスト的だったとはいえ、完敗でした。だけど、次節はホームでのシーズン最終戦。こういう試合はアウェイだけに、ホームではしっかりと戦って勝利を掴んで欲しいものです。（ささたく）

●う〜ん、チカラの差。プレーオフをホームで戦える位置をキープするクラブのレベルを見せつけられた。なんだい？あの、ランキングで2位の倍以上の得点決めてる11番は。タッパもあるし、脚元も柔らかそう。周りの選手もスペース埋めるわ、パスの受け方上手いわ。なんというか、昇格するかも知れないクラブはこうだね？というか、昇格してもやれそうだねえ、という感想しか出なかった。

試合を通して、ほぼ、宮崎に主導権を握られてしまったワケだけど、同点ゴールは鮮やかだったし、得点の前後はイイ流れを作ってた。箱崎のシュートは惜しかったね。いや、アレはミッチーを誉めておこう。昇格してね！>ミッチー

前節のシティ戦は、ウチのやりたいことが出来て、それが上手くいって、さらに、シティに「全くと言っていいほど、運がなかった。」という試合だったけど、この試合は、ほぼ、「何にも出来なかった、させてもらえなかった。」かな？終盤は逆光で味方と相手の区別がつきにくかったせいもあるかもだけど、それは言い訳には出来ないからね。

宮崎は『見ていて楽しいサッカー』ってのはこういうのだよね……というのを示してくれた。それを作るにはある程度の時間が必要。一朝一夕に出来ないと思う。来季は半年間の熟成期間があるんで、早いうちに体制を決めて臨んでほしいね。石丸さんの継続だね？

さて、泣いても笑っても最終戦。今のメンバーで戦える最後の試合。長良川なんで、ゼッタイ笑って締めくくりましょう！（ぐん、）

【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベスト ゴール・MVPは？

◆ベストゲーム

第27節 アウェー 相模原戦

●「快勝」はいくつかあったけど「完勝」とはこの試合。相手が強い風上になった後半もつなぐサッカーに徹した（そしてそれがうまくいかなかった）こともあって、望外の大量得点となった。（吉田鑄造）

第34節 アウェー 栃木SC戦

●先制を許したものの、選手交代が効果的だった逆転ゲーム。（岐阜の誇り）

第36節 ホーム 栃木C戦

●この試合に勝ってJ2昇格を決めようと乗り込んできた首位チームを相手に2得点を奪いつつ、破壊力のある相手の攻撃陣に倍近いシュートを撃たれながらも零封。非常に緊張感のある展開と、その苦しい試合内容でも勝利できたホーム戦での歓喜。これしかないのでは。なお次点は、今季最多得点を挙げた第27節・A相模原戦（5-0）です。（ささたく）

●他にも7連勝中の試合、特に、『夢のスコア』5-0で勝ったアウェイ相模原戦とどちらにするか悩んだけど、試合内容、雰囲気（どちらもDAZNでしか見てないけど）からこの試合に決定。来季はこういう試合があたりまえになるといいなあ。でも、今日の試合が今季一番になることを願ってみたいですからね。（ぐん、）

◆ベストゴール

No.22 文仁住 第30節(10/4) ホーム群馬戦

●まさにゴラッソと呼ぶに相応しい一撃。群馬DFが寄せてきていなかったこともあったが、あの位置から見事なシュートが放たれるとは。（岐阜の誇り）

●1-1の同点で膠着した試合終盤。敵陣ミドルゾーンでボールを受けて、狙い澄ましてゴール上隅に突き刺すスーパーミドル。相手GKの伸ばした手を弾き飛ばし、その軌道を見ていた#16 西谷亮がシュートが決まった後に頭を抱えてたのも高ポイント（笑）。正にゴラッソでした。なお、次点には『シュートはコースとタイミングよ？』とばかりに決めた、#97 福田晃斗のゴール（第34節・アウェー栃木SC戦）を推します。（ささたく）

推したいゴールは両手の指じゃ足りないんだけど、やっぱり、今季はこの一撃、でしょう。どうしても、ミドル系の鳥肌が立つようなヤツが印象に残るのはしかたない。

とはいえ、ベスト・ゲーム同様、今日の試合で今季一番のヤツが出るのを期待してます！（ぐん、）
●「技術の高さ」で言ったら西谷や泉澤のゴールも挙がるのだけど、やはり「大向うを一発で唸らせる」というより「大向うを一発で黙らせる」だけの迫力があったのは、このゴールということになる。ホント、とんでもなかったわ。（吉田铸造）

◆MVP

No.16 西谷亮

●レンタル移籍 2 年目の今季は、かなりフォアザチームなプレーも多く、中心選手としての自覚もかなりあったと思うので。（岐阜の誇り）
●やはり、シーズンを通じて活躍した選手から選びたいので、現在 8 得点 6 アシストの #16 西谷亮選手を推します。今季はチームにフィットし、攻撃の主軸として輝いていました。来季もレンタル延長してくれないかなあ……。次点は、現在 7 得点 5 アシストの #10 北龍磨選手です。（ささたく）

No.1 茂木秀

●ホントは石丸さんを推したい（笑）。けど、選択は「プレーヤー」からだもんね。とすれば、やはり、この人を選びます。フル・シーズンではなかったけど、本当によく戻ってきてくれました。なんとか、やっと……に近い J3 残留も彼の存在、貢献が大きかった。ありがとう！来季もいっぱい「モギシュークリーム！」（ぐん、）
●セラントスが特にダメだったわけじゃないんだけど、彼は「GK がシュート・セーブするという段階で DF の問題」というオリバー・カーンの思考の持ち主ですぐに守備陣を叱責（？）するように見えた。モギシューはそうではなく、「守備陣が奮闘してもシュートは来るもの」という前提で守っているような感じ。岐阜にはそちらの方が合っていたのではないかな。そんな気がする。（吉田铸造）

今季の、そして
来季の F C 岐阜へ。

●（まだ終わっていませんが）今季も無事にリーグを終えることができます。試合運営に御尽力された、数多くの関係者の皆さまに対して、心からの感謝と敬意を申し上げます。
さて、過去 3 シーズンの F C 岐阜の戦績は以下の通りです。

2023 年	38 試合 14 勝 12 分 12 敗：8 位 /20 チーム （勝率 0.37・1 試合当たり勝ち点 1.42） 44 得点 35 失点（平均 1.16 得点 0.92 失点）
2024 年	38 試合 15 勝 8 分 15 敗：8 位 /20 チーム （勝率 0.39・1 試合当たり勝ち点 1.39） 64 得点 56 失点（平均 1.68 得点 1.47 失点）
2025 年	37 試合 13 勝 8 分 16 敗：13 位 /20 チーム （勝率 0.35・1 試合当たり勝ち点 1.27） 50 得点 57 失点（平均 1.35 得点 1.54 失点）

やっぱり今季も、GW前後（というか今季は春先）から失速し、夏場に全く勝てず、終盤ようやく“帳尻合わせ”的にチームが躍進するというシーズンでした。たまたま、そういう展開のシーズンが続いたのかもしれないですが、これが（岐阜の酷暑も要因でしょうが）チームの構造的な問題なのだとしたら、練習場などの環境改善や、チーム編成などを真剣に検討する必要があると思います。また、（他チームと比較していませんが）今季も大怪我で長期離脱してしまう選手が多く、成績にも影響したように思います。これも要因をしっかりと分析する必要があるように感じます。

そもそも論として、昨季の終盤には好調だった天野（元）監督を、今季は大島（前）監督に替える必要があったのか。もちろん、選手編成が上手くいかなかったり、先述したように怪我人の影響もあったと思いますが、今季も“ポゼッション重視”という、J3 では選手を選ぶ必要があるサッカーを志向してしまったことが、成績低迷の要因のひとつだったように思えます。様々な原因はあれど、フロントは真摯に総括してもらいたいものです。そして、理想論のサッカーではなく、もっと地に足の付いた、自分たちの選手を見た上で、できるサッカーを志向するべきではないでしょうか。そのためには、もっとフィジカル（走力）を強化する必要があると感じます。先日、久しぶりに J1 の試合を現地で見たのですが、（町田が躍進している影響もあるのか）いつの間にか J1 でもフィジカル重視のサッカーになっていたことに驚きました。いわんや J3 をや。岐阜の酷暑対策のためにも、しっかりとフィジカルを鍛え上げて欲しいと思います。それに、以前から言及されていることですが、F C 岐阜サポーターは、ひたむきに走る選手に大きな拍手を送る傾向があることでもありますので。今季も F C 岐阜は J2 昇格を果たすことはできませんでした。これで 7 季目の J3 を迎えることになります。まあ、春先から下位に低迷して、3 ヶ月前までは J3 残留もかなり厳しい状況でしたから、あの状態から立て直ただけでも奇跡的ではあるのですが（苦笑）。そして、いよいよ秋春制へのシーズン移行と、その前の半年間の『百年構想リーグ』。この特別大会と、2026-27 シーズンをどのように（つまり「半季＋1 季」なのか「1.5 季」なのか）考えるのか、おそらく各クラブの立ち位置で大きく変わるんじゃないかと思います。選手編成（契約）・営業・チケットやユニ販売、そして特別大会そのものの捉え方など、様々な面で違いが出てくるように思います。しかも、これが（おそらく）最初で最後の特別大会なので、どれが正解というものも見えないような気もしまして（苦笑）。個人的には、現在の F C 岐阜の立ち位置としては、2026-27 シーズンに J2 昇格を達成するための準備期間として割り切った、チームの編成と強化が進むための特別大会になればいいかなと思うのですが、営業的にはそうも言ってもらえないんだろうなあ……。 （苦笑）。（ピッチ内外の）試合運営は今季も素晴らしかったです。スタグルをはじめ、J3 で圧倒的レベルの“地域のお祭り”を、今季もしっかりと楽しませていただきました。本当にありがとうございました。来季も、文句や愚痴を言いながら、僕は『このクラブとチームを応援（サポート）』するでしょう。サッカーが地域にある日常、スポーツで生活が豊かになる社会、それこそが『Jリーグ百年構想』です。なお、今季もまた『岐大通』をスタジアム内で配布させていただきました。クラブの格別のご配慮に、心から感謝申し上げます。そして毎年お伝えしていますが、僕ら『岐大通』の制作体制は、高齢化が非常に重要かつ深刻な課題です（苦笑）。いつでも、記事投稿や、ペーパー配布のお手伝いをしてくれる方を大募集しておりますので、よろしくお願いします。それではまた、来季の『岐大通』でお会いしましょう！（ささたく）
●宮崎戦の結果、最終節を待たずして、今季の負け越しと 11 位以下が確定。残念ながら、昨季より後退した成績となってしまった。それでも、『鳴り物入り』で新監督を迎えながら、一時は最下位まで落ち込んだものの、苦渋（だと思ふ）の選択から新たな指揮官を迎え、なんとか、『残留』という最低限のラインをクリアできたのは本当によかった。選手はもちろん、石丸監督を始めとする現場スタッフやフロントの方々には心より感謝します。とはいえ、昨季より後退という結果もさることながら、「また、イチ、もしくはゼロからやり直しですか。」という状況を招いたことには合点がいかない。昨季、最終盤まで昇格圏内を争い、夢を見させてくれた天野さんとの契約を延長せず、新

たに大島さんを新監督に迎えたこと。長らく、天野さんが『暫定』だったことも踏まえて、昨季はシーズン半ばから天野さん以外の人物にオファーを出してたんじゃないか？と穿った見方もしていたり。でも、経過はともあれ、新監督が結果を出せるよう、新戦力も獲得したと思うんだけど、ケガ人が出たこともあってか、戦術が浸透せず、その結果、8月が終わって僅か4勝という惨憺たる戦績。そんな中で指揮官の交代を決断し、危険水域をギリギリで回避して残留を勝ち取ったフロント首脳陣の判断力、そして、石丸さんを選んだ慧眼には感服する次第。

ただ、誤解を恐れずに（あくまで、個人の感想です。）と前振りをして）言わせていただければ、「あのまま、大島さんで行ってもよかったんじゃないか？」と。来季のJ2昇格条件を満たした栃木シティは別格というか、ちょっと違うけど、八戸や宮崎を始めとした昇格圏内を争ってるクラブを見ると、ゆっくりかもしれないが、しかし、一步一步を確実に歩んできた結果が今に至ってるという気がしてならない。先行していたはず？のボクらは、いつのまにか、置いてきぼりにされているワケだが、実はそれも仕方がないことで、毎年のように壊しては作るの繰り返し。これを『スクラップ＆ビルド』と表現したら目を剥いて食いつかれる状況。しかし、ならば、今季の状況をどう、表現するのですか？と、次の持株会では伺ってみたい。

今号の宮崎戦の感想にも書いたけど、宮崎は『見ていて楽しいサッカー』をしていた。で、このフレーズは、今季の、ボクらのクラブも標榜していたような気がする。いや、今季だけでなく、ここ数年（チーム・スローガンよりも長い期間）、言い続けてきてたんじゃないかな？そして、それに続く『完成すれば面白いサッカー』までがワンセット。『見ていて楽しい、攻撃的なサッカー』、それを岐阜のサッカーとする」ために招聘したのが大島さんであるならば、たとえ、JFLに降格したとしても彼を支え継続するべきだったのでは？とすら思う。

思い描いているサッカーを実現するためには時間がかかる。そのために苦汁を舐め、塗炭の苦しみを味わったとしても、完成しさえすれば、そのサッカーで天下が取れる。それくらいの気概を見せてくれてた方が、自分としては腑に落ちる、それなら、「それこそが『下剋上』。それでこそ、岐阜！」と賛同できた。自分語りで申し訳ないけれども、ボクはこのクラブがどのカテゴリーであろうとついて行く。もちろん、自分ごときがついて行っても大勢に影響がないのは承知している。それでも、やると決めたのなら貫いてもらってもよかったな、と。

そうは言っても、このクラブにもスポンサー様がいて、全県を挙げての支援もあるのだから、最低限クリアしなければならないラインがあり、その中の最たるものは「Jリーグであること」だと思うので、そこをクリアしてくれたことには繰り返して感謝を申し上げる次第です。

取り止めのないことばかり書いたけど、ボクの最大の望みは『自分が居なくなっても、このクラブがずっとあり続けること』なんで、勝敗は関係なく、応援していく。その上で、出来れば、一度でいいからJ1でやってみたいし、タイトルも取ってほしい。とりあえず、J2に戻りたいな……という願望を抱きつつ、最初で最後？の『百年構想リーグ』と、全く未知の『秋春制によるリーグ戦』を楽しみにしたいと思ってます。

あと、最後になりますが、今季をもってコール・リーダーを後進に譲るという『たつに一』にこの場を借りて、心から感謝と敬意を表します。想像を絶する辛さや苦しみがあったと思いますし、気力も体力もすり減らしたと思います。本当にお疲れ様でした。これからもよろしくお願いします。（ぐん、）●『機動戦士ガンダム』ノベライズ版に、基地に帰還したホワイトベース乗組員に対しマチルダ・アジャンが呟く言葉がある。「よく生き延びたもの……」。ホントに、そうとしか言いようのないシーズンだった。第18節・琉球戦の敗戦で大島監

督が解任になり、石丸監督の初采配となった第20節開始時点の順位は20チーム中18位。残留ラインから勝ち点が1だけ上まわっている勝ち点18の18位だ。それがだよ、最終節を前にして勝ち点は47だ。19試合で勝ち点18しか積みなかったチームがそこからの18試合で29も積んだわけだ。そりゃ、そういう感想にもなるでしょうよ。ホント、よく生き延びたもの……。

幸福な結果論の賜物だ。ウチがもっと早く大島采配の限界に気づいて解任という手を打っていたとしても、その時には石丸氏はまだ愛媛の監督を勤めていたので、やってきたのは別の監督だった。今季のような劇的な挽回が出来たかは、まったくわからない。

前監督の大島氏、好調を維持する八戸の名伯楽・石崎監督、そして石丸監督のアプローチは、有名な『三英傑とホトトギス』の川柳のように喩えることが出来る。大島氏は「出来ぬ（サッカー）なら、させる」で、石崎監督は「出来ぬ（サッカー）なら、させない」で、石丸監督は「出来ぬ（サッカー）なら、出来るようにする」。石丸監督のアプローチは、リーグ終盤に後方からのビルドアップに失敗しての失点が連続した時に「あれはホントに技術的なミスだから（戦術的には間違っていない）」と言い切った時に、なんとなく見えた。その、無闇に前に蹴らないで後ろから隙を突いていくアプローチに成功すると栃木シティ戦のように快勝を呼び込むことも出来る。だからだろう、石丸氏の岐阜監督就任時に、おそらく愛媛サポ氏だと思うけど「石丸サッカーは時間がかかるから……」というコメントになったのだ。そのコメントを読んで「残留に間に合うんだろうか……」とぼくは不安になったのだけど、大島氏と石丸監督の違いは、上に喩えて書いたように大島氏は「させた」、石丸監督は「出来るようにする手順を持っていた」こと。初采配の八戸戦の大敗で「何が出来て、何が出来ないかわかった」とのコメントを出していたが、そこから一月くらい経過してからの7連勝。（その程度の期間で得られる）当座の結果のために必要な戦術と、（7連勝から先の）当座の結果が出て次のステップに達するための戦術とを持ち分けていたのだろうね。

さて問題は来季だ。前半（春～秋）は昇降格無関係の特別大会。J2、J3混成リーグなので、公式戦で格上・J2チームの胸を借りることが出来る。ま、これはどのJ3チームも借りられるわけだが（苦笑）。そこで叩いて（←競馬用語）力をつけて本番のJ3へ。ワクワクするね……するかあ？石丸氏が来季も監督としてチームを率いてくれるかわからない。岐阜の小松社長の枕元に黒い羽根をつけた天使のような悪魔が現れて「あなたのチームに相応しい監督は彼ではありません」と囁くかもしれない。それ以外にも、今季の岐阜の快進撃を見た、J1からJ2に、あるいはJ2からJ3に落ちたチームが彼を引き抜いていくかもしれない。石丸監督が「ありがとうFC岐阜、J3ではいい経験が出来た」とにこやかに去っていき、来季になったら相手チームのベンチにいてボコボコに無双されてしまうという可能性、そんなに低くないぞ。

だから小松社長（あるいは決定権のある別の方）、まずは石丸監督を留任させてください。話はそれからでいいです。（吉田 鑄造）